

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年10月4日
【四半期会計期間】	第17期第2四半期（自平成24年5月21日 至平成24年8月20日）
【会社名】	株式会社イオンファンタジー
【英訳名】	AEON Fantasy Co.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 土谷 美津子
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043(212)6203(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経・管理本部・本部長 新田 悟
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
【電話番号】	043(212)6203(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経・管理本部・本部長 新田 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第2四半期 連結累計期間
会計期間	自平成24年2月21日 至平成24年8月20日
売上高(千円)	21,912,208
経常利益(千円)	1,587,206
四半期純利益(千円)	738,273
四半期包括利益(千円)	705,027
純資産額(千円)	18,841,551
総資産額(千円)	26,602,415
1株当たり四半期純利益金額(円)	40.71
潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額(円)	40.60
自己資本比率(%)	69.8
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,263,145
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	154,436
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	579,689
現金及び現金同等物の四半期末残高 (千円)	5,783,299

回次	第17期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年5月21日 至平成24年8月20日
1株当たり四半期純利益金額(円)	25.86

- (注) 1. 当社第17期第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度の経営指標等については記載しておりません。
2. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の連結子会社）は、タイに進出しました。これに伴い、当社は子会社が2社増加しました。

当第2四半期連結累計期間に設立した子会社は、次のとおりであります。

イオンファンタジータイランド（AEON Fantasy(Thailand) Co.,Ltd.）

イオンファンタジーホールディングスタイランド（AEON Fantasy Holdings (Thailand) Co.,Ltd.）

この結果、平成24年8月20日現在、当社グループは、当社及び子会社4社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、数値についての対前年同四半期比の記載は行っていません。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社は、遊びを通じて子供たちの健全な育成を目指し、中期経営計画の実現に向けて、国内における成長持続と海外での新規出店増による成長拡大をするべく、それぞれの施策を進めております。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高219億12百万円、営業利益15億81百万円、経常利益15億87百万円、四半期純利益7億38百万円となりました。

#### （国内事業）

当第2四半期連結累計期間は、今年度当社の大きな政策課題である「イオンファンタジーブランド」の確立による現場力強化にむけた取り組みを推進してまいりました。特にお客さまや従業員等各ステークホルダーに対する取り組みとして、当社キャラクターラちゃんを中心とした「モーリーファンタジーのなかまたち」をブランドメッセージャーと位置づけ、オリジナル遊戯機械開発や販売促進にも直結するモーリーファンタジーの絵本配布、他社とのコラボレーションを行いました。

オリジナル遊戯機械開発は5機種それぞれ100台、合計500台を投入し、幼児を中心に多くのお子さまに楽しんでいただいております。当社キャラクターの絵本配布も含めたこれらの取り組みが幼児部門の強化につながり、イオンファンタジーらしい差別化された店づくりを行うことが出来ました。

また、社内の組織力向上の取り組みとして、「課題解決型組織」への進化に向けた現場オペレーションの見直しや現場第一線を起点とした57店舗の活性化とともに、店スタッフの専門能力向上への取り組み等を進めた結果、週末の集客に苦戦した6月度の落ち込みはあったものの第2四半期累計期間としてはほぼ計画に沿った営業概況でした。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における国内事業の売上高は214億43百万円、営業利益は17億11百万円となりました。

#### （海外事業）

海外事業は、積極的な先行投資を行い、中国で4店舗、マレーシアで3店舗、さらには新たな成長市場であるタイにおいて子会社を設立いたしました。その結果、海外の累計店舗数は中国で7店舗、マレーシアで23店舗まで拡大させるとともに、それぞれの既存店売上高伸び率が中国で15.8%増、マレーシアが21.4%増となるなど確実に収益の向上を進めております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における海外事業の売上高は4億79百万円、営業損失は1億30百万円となりました。

財政状態の分析

	第17期 第2四半期連結会計期間末 (平成24年8月20日)
	百万円
流動資産	13,473
固定資産	13,128
流動負債	7,544
固定負債	216
純資産	18,841

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、134億73百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金58億83百万円、売上預け金17億72百万円、関係会社寄託金40億円であります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、131億28百万円となりました。主な内訳は、遊戯機械72億59百万円、のれん11億65百万円であります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、75億44百万円となりました。主な内訳は、買掛金12億95百万円、設備関係支払手形27億43百万円であります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、2億16百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、188億41百万円となりました。主な内訳は、資本金17億47百万円、資本剰余金17億16百万円、利益剰余金152億59百万円であります。

経営成績の分析

(売上高)

売上高は219億12百万円となりました。その部門別内訳は、遊戯機械売上高170億44百万円、商品売上高47億95百万円、委託売上高68百万円、その他3百万円であります。

(売上原価)

売上原価は189億39百万円となりました。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は13億91百万円となりました。

(営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は32百万円となりました。主な内訳は受取利息10百万円、機械仕入割戻8百万円であります。営業外費用は27百万円となりました。主な内訳は為替差損11百万円、固定資産売却損11百万円であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は57億83百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果得られた資金は、12億63百万円となりました。その主な内訳は、税金等調整前四半期純利益15億67百万円及び減価償却費19億31百万円の計上による資金の増加と、売上預け金15億63百万円の増加による資金の減少であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果使用した資金は、1億54百万円となりました。その主な内訳は、有形固定資産の取得による支出20億32百万円及び関係会社寄託金の回収20億円による資金の増加であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果使用した資金は、5億79百万円となりました。その主な内訳は、配当金の支払であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年8月20日)	提出日現在発行数(株) (平成24年10月4日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	18,175,688	18,175,688	株式会社東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100 株
計	18,175,688	18,175,688	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年5月21日～ 平成24年8月20日	-	18,175,688	-	1,747,139	-	1,650,139

(6) 【大株主の状況】

平成24年8月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
イオン株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	11,373	62.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会 社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	732	4.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	513	2.83
ビービーエイチ フォー ファイデリティ ロー プライズド ストック ファンド(プ リンシパル オール セクター サポート フォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	82 DEVONSHIRE ST BOSTON MASSACHUSETTS 02109360582 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	475	2.61
マックスバリュ西日本株式会社	広島県広島市南区段原南1丁目3-52	114	0.63
ミニストップ株式会社	東京都千代田区神田錦町1丁目1番地	114	0.63
イオンクレジットサービス株式会社	東京都千代田区神田錦町1丁目1	114	0.63
イオンモール株式会社	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	114	0.63
イオン九州株式会社	福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目9- 11	114	0.63
イオンファンタジー社員持株会	千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5-1	97	0.54
計	-	13,768	75.75

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年8月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 44,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,037,700	180,377	-
単元未満株式	普通株式 93,488	-	-
発行済株式総数	18,175,688	-	-
総株主の議決権	-	180,377	-



【自己株式等】

平成24年8月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社イオンファンタジー	千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1	44,500	-	44,500	0.24
計	-	44,500		44,500	0.24

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

なお、当社は第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報は記載しておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年5月21日から平成24年8月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年2月21日から平成24年8月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成24年8月20日)

<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	5,883,299
売上預け金	1,772,078 <sup>1</sup>
たな卸資産	940,994 <sup>2</sup>
関係会社寄託金	4,000,000 <sup>3</sup>
その他	877,339
流動資産合計	13,473,710
固定資産	
有形固定資産	
遊戯機械(純額)	7,259,128
その他(純額)	1,882,026
有形固定資産合計	9,141,155
無形固定資産	
のれん	1,165,674
その他	40,670
無形固定資産合計	1,206,344
投資その他の資産	
敷金及び差入保証金	2,092,715
その他	688,488
投資その他の資産合計	2,781,204
固定資産合計	13,128,704
資産合計	26,602,415
<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	1,295,917
未払費用	1,373,291
未払法人税等	1,021,113
賞与引当金	171,740
役員業績報酬引当金	24,140
設備関係支払手形	2,743,086
その他	915,469
流動負債合計	7,544,759
固定負債	
退職給付引当金	15,266
資産除去債務	190,938
その他	9,900
固定負債合計	216,104
負債合計	7,760,864

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成24年8月20日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	1,747,139
資本剰余金	1,716,805
利益剰余金	15,259,538
自己株式	71,402
株主資本合計	18,652,080
その他の包括利益累計額	
為替換算調整勘定	82,026
その他の包括利益累計額合計	82,026
新株予約権	46,314
少数株主持分	225,182
純資産合計	18,841,551
負債純資産合計	26,602,415

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 2 月21日 至 平成24年 8 月20日)
売上高	21,912,208
売上原価	18,939,340
売上総利益	2,972,868
販売費及び一般管理費	1,391,326
営業利益	1,581,542
営業外収益	
受取利息	10,716
機械仕入割戻	8,146
その他	14,017
営業外収益合計	32,880
営業外費用	
為替差損	11,192
固定資産売却損	11,715
その他	4,308
営業外費用合計	27,216
経常利益	1,587,206
特別損失	
閉店損失引当金繰入額	11,421
減損損失	8,569
特別損失合計	19,990
税金等調整前四半期純利益	1,567,216
法人税、住民税及び事業税	970,989
法人税等調整額	142,327
法人税等合計	828,661
少数株主損益調整前四半期純利益	738,554
少数株主利益	280
四半期純利益	738,273

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	738,554
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	33,527
その他の包括利益合計	33,527
四半期包括利益	705,027
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	713,547
少数株主に係る四半期包括利益	8,520

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成24年2月21日  
至平成24年8月20日)

<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	1,567,216
減価償却費	1,931,443
固定資産除売却損益(は益)	79,622
賞与引当金の増減額(は減少)	13,493
受取利息	10,716
減損損失	8,569
売上債権の増減額(は増加)	109
売上預け金の増減額(は増加)	1,563,725
たな卸資産の増減額(は増加)	144,005
仕入債務の増減額(は減少)	423,708
その他	32,573
小計	2,246,155
利息の受取額	11,969
法人税等の支払額	994,978
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,263,145
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	2,032,963
有形固定資産の売却による収入	35,288
無形固定資産の取得による支出	24,640
長期前払費用の増加による支出	10,181
敷金及び保証金の差入による支出	52,676
敷金及び保証金の回収による収入	39,055
関係会社寄託金の純増減額(は増加)	2,000,000
その他	108,319
投資活動によるキャッシュ・フロー	154,436
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
配当金の支払額	579,691
その他	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	579,689
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,373
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	532,392
現金及び現金同等物の期首残高	4,326,947
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	923,959
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,783,299

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(1)連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、イオンファンタジー北京（永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司）及びイオンファンタジーマレーシア（AEON FANTASY（MALAYSIA）SDN.BHD.）については、今後重要性が増すと考えられるため、連結の範囲に含めております。また、当第2四半期連結会計期間より、新たに設立したイオンファンタジータイランド（AEON Fantasy（Thailand）Co.,Ltd.）及びイオンファンタジーホールディングスタイランド（AEON Fantasy Holdings（Thailand）Co.,Ltd.）を連結の範囲に含めております。

(2)持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結の対象としており、その内容は次のとおりであります。

連結子会社の数 4社

連結子会社の名称 永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司 AEON FANTASY（MALAYSIA）SDN.BHD.

AEON Fantasy（Thailand）Co.,Ltd. AEON Fantasy Holdings（Thailand）Co.,Ltd.

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち永旺幻想（北京）児童遊楽有限公司の決算日は、12月31日であります。

四半期連結財務諸表の作成に当たっては、同四半期決算日現在（平成24年6月30日）の財務諸表を使用しております。ただし、7月1日から四半期連結決算日8月20日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品 売価還元平均原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

貯蔵品 最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く） 経済的耐用年数に基づく定額法

各資産別の耐用年数として下記の年数を採用しております。

建物（建物附属設備） 3～10年

遊戯機械 2～6年

器具備品 2～10年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

長期前払費用

定額法



(3) 重要な引当金の計上基準

賞与引当金

社員及びフレックス社員（パートタイマー）に支給する賞与に備え、支給見込額のうち当四半期連結累計期間に負担する金額を計上しております。

役員業績報酬引当金

役員に対する業績報酬の支給に備えるため、支給見込み額のうち、当四半期連結累計期間に負担する金額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備え、当四半期連結会計期間末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当四半期連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。なお、過去勤務債務は発生年度において一括処理し、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。

閉店損失引当金

店舗の閉店に伴い発生する損失に備え、店舗閉店により合理的に見込まれる中途解約違約金等の閉店関連損失見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の四半期決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

効果の発現する期間等（10年間）の定額法により償却を行っております。

(6) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引出可能な預金からなっております。

(7) その他四半期連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

1. 売上預け金

ショッピングセンターの店舗賃貸人に預けている売上代金であります。

2. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月20日)
商品	562,408千円
貯蔵品	378,585千円

3. 関係会社寄託金

余裕資金の有効活用を目的としてイオン株式会社との間で金銭消費寄託契約を締結しており、当該契約による寄託金であります。

（四半期連結損益計算書関係）

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)
従業員給料及び賞与	450,328千円
賞与引当金繰入額	47,677千円
役員業績報酬引当金繰入額	21,241千円
退職給付費用	32,118千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)
現金及び預金勘定	5,883,299千円
預入期間が3か月を超える定期預金	100,000千円
現金及び現金同等物	5,783,299千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)

1. 配当金支払額

平成24年4月5日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	580,143千円
1株当たり配当額	32円
基準日	平成24年2月20日
効力発生日	平成24年4月24日
配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、ショッピングセンター内エンターテインメントアミューズメント施設の設置運営を主な事業としており、国内における「国内事業」、海外における「海外事業」の2つを報告セグメントとしております。

「国内事業」は当社が事業を営んでおり、「海外事業」は、イオンファンタジー北京(永旺幻想(北京)児童遊楽有限公司)が中国において、イオンファンタジーマレーシア(AEON FANTASY(MALAYSIA)SDN.BHD.)がマレーシアにおいて、ショッピングセンター内エンターテインメントアミューズメント施設の設置運営事業をそれぞれ営んでおります。

タイにおいてショッピングセンター内エンターテインメントアミューズメント施設の設置運営事業を行うためイオンファンタジータイランド(AEON Fantasy(Thailand)Co.,Ltd.)、イオンファンタジーホールディングスタイランド(AEON Fantasy Holdings(Thailand)Co.,Ltd.)を設立しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額(注) 1
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,432,270	479,938	21,912,208	-	21,912,208
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,188	-	11,188	11,188	-
計	21,443,459	479,938	21,923,397	11,188	21,912,208
セグメント利益又は損失( )	1,711,846	130,303	1,581,542	-	1,581,542

(注) 1.セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	40円71銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	738,273
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	738,273
普通株式の期中平均株式数(株)	18,130,509
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	40円60銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
(うち支払利息(税額相当額控除後) (千円))	-
普通株式増加数(株)	51,351
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年9月21日

株式会社イオンファンタジー  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 陸田 雅彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡辺 雅子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イオンファンタジーの平成24年2月21日から平成25年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年5月21日から平成24年8月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年2月21日から平成24年8月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イオンファンタジー及び連結子会社の平成24年8月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1.上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2.四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。